

道

富山市教育センターだより
第40号
平成30年7月24日
富山市八人町5-17
TEL 076-431-4404
http://www.tym.ed.jp/c10

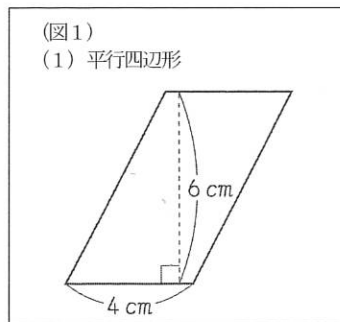
- 学校教育課発
- 教育センター発
- 初任・新規採用教職員紹介
- 学校紹介

(題字「道」明瀬 正則)

「授業改善に関する一考」

富山市教育委員会教育長 宮口 克志

10年以上前のことですが、平成19年度全国学力・学習状況調査の小学校6年生算数科の問題に、平行四辺形の面積に関するものがありました。A問題は、底辺4cmと高さ6cmが図形の中に示され、その面積を求める問題(図1)、そしてB問題では、(図2)にある「東公園」と「中央公園」の面積を比較し、どちらが広いかを式や言葉で説明する問題です。全国の正答率は、A問題が96%、B問題は18%という結果でした。



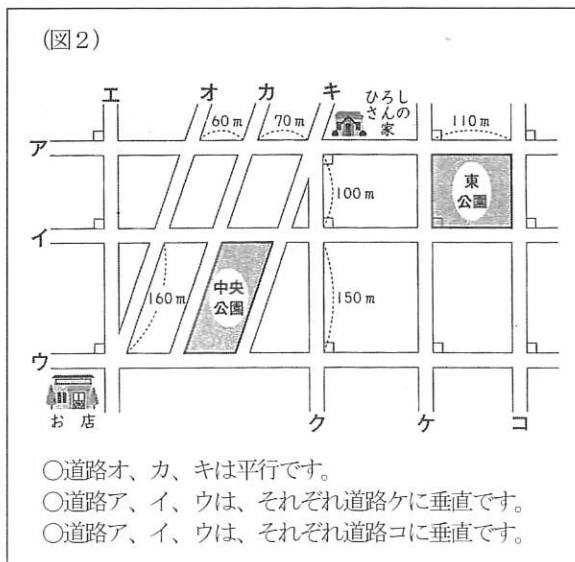
全国の傾向と同様に、富山市においても、A問題に比べてB問題の正答率が低いという状況が見られ、各学校では調査結果の分析に基づいて、これまでも継続して改善の手立てを講じてきました。

しかしながら、B問題の方が全国の平均正答率をより大きく上回っていた富山市の現状は、近年その差が徐々に縮まる傾向にあり、たいへん気がかりです。それは、A問題は反復練習を行うことで、短期間に一定程度の高まりが期待できますが、B問題を解く能力は一朝一夕に身につくものではなく、一旦低下したものを再び向上させるには、かなりの時間と労力が必要となるからです。

基礎・基本の定着が不十分だからといって、計算・漢字の練習や、単純化された平易な問題を繰り返して指導しているばかりでは、活用する力を育成することはできません。生きて働く知識・技能や思考力・判断力を身につけるためには、教材や課題として「何を」「どのような形」で提示したらよいかを事前にしっかりと吟味すること、そして、他の単元や異なる教科等の指導内容との関連性を踏まえて、教科等横断的な視点で内容を組織的に配列して指導に当たることが大切です。

いずれの教科等においても、単純化された事象ばかりではなく、雑多な情報を意図的に組み込んで提示することで、必要な情報を取捨選択して問題を解決する力がはぐくまれるでしょうし、他教科の内容や日常生活事象とも関連づけて考えることによって、理解が一層深まり、様々な場面への適応能力の高まりも期待できます。

正答率の低い問題の中に、日々の授業改善のための大切なヒントが潜んでいるようです。子どもたちの実態分析を基にした、創意工夫のある授業が展開されることに期待します。



このことは、「転移」の困難さを物語っています。つまり、底辺と高さが記してある平行四辺形の面積を求めることができても、B問題のように地図中に示された雑多な情報の中から、必要なものを選び取って面積を求めることには結びつかないということです。